

大阪探検隊
Osaka City Expeditionary party

vol.001

[渡船]
Ferryboat



総合調査設計では、大阪を中心としたまちの魅力を発見、発掘することを目的として「大阪探検隊」なる活動を行っています。

今回ご紹介する内容は、昨年大阪ベイエリアを中心にした「大阪市渡船」巡りです。コースは安治川トンネルを起点として、天保山、甚兵衛、千歳、船町、木津川、千本松の渡船を巡り、大正区にある沖縄料理店を目指したものです。

時間	コース	交通手段	
10:00	大阪駅バス乗り場集合		
	地下鉄梅田駅	地下鉄	
	地下鉄九条駅	徒歩	
	安治川トンネル	徒歩	
12:00	西九条駅	J R	
	ユニバーサル・シティ駅	徒歩	
	天保山(てんぼうざん)渡船場	徒歩	
	甚兵衛(じんべえ)渡船場	徒歩	
	千歳(ちとせ)渡船場	徒歩	
	船町(ふなまち)渡船場	徒歩	
	木津川(きづがわ)渡船場	徒歩	
	千本松(せんぼんまつ)渡船場	徒歩	
	18:00	大正区沖縄料理店「ウルマ御殿」	

日時は平成13年9月8日(土)で、当日の気温は最高31.8と残暑の厳しいものでした。

意気揚々と集合場所である梅田をスタートした一行は、厳しい残暑の中歩き続け、木津川渡船場あたりではメンバーの口数も少なくなりましたが、最終目的地である千本松渡船場についていた時には、木津川に架かる千本松大橋の壮大な景色を前に、達成による感動を味わいました。

その後の宴では、生の島唄と沖縄料理や泡盛に酔いしれながら、一日のルートを振り返り語り合いました。

各渡船などの詳細については、大阪市などのホームページに掲載されておりますので、そちらをご参照ください。ここでは、本ルートを周回したメンバーの感想を掲示させていただきます。

安治川トンネル（安治川隧道）【大阪市西区安治川 - 大阪市此花区西九条】

九条駅から到達し、はじめは「ん？こんなところにトンネルがあるの？」という印象でした。安治川の約 17m の河底までエレベーターで下り、2 m ほどの通路を渡るとそこは此花区。トンネルは、大阪一涼しい道路ではないでしょうか。

ここでは、「お願いしまーす」とエレベーターを利用する人と運転をする人との会話、コミュニケーションがしっかりとしており、忘れがちな道路の機能としてコミュニティは大切だよねと、実感したメンバー達でありました。



天保山渡船場【大阪市此花区桜島 - 大阪市港区築港間】



安治川トンネルを後に、JR 桜島線を使いユニバーサル・シティ駅に到着。まずは周辺を散策し、中からの音や煙に「おお！無料（ただ）で USJ のアトラクションが体感できるぞ！」とメンバーも興奮気味。まだ誰も中に入っていないんですよえ・・・。

USJ から天保山渡船場まで道に迷う一行。「あー！乗船時間に間にあわない！」と焦り始めた頃、カッコいい外国の人たちが、どこからかやって来るではないですか。ローラーブレードで疾走する姿はショーのようで、写真を撮けると「オオ、イエーイ！」とポーズまでとってくれる。

そんなカッコいい人達は、天保山渡船を利用して、USJ に向かう途中の人達でした。

天保山渡船は、対岸の天保山マーケットプレイスや観覧車、大型船の景色が気分をワクワクさせます。阪神高速の天保山大橋も圧巻で、ベイエリアが満喫できるものとなっています。そのためか家族連れの方も多く、子ども達はそうした景色に感動した様子でした。もちろん私達メンバーも「おお動いた！おお気持ち良い！」と童心に返った、そんな様子でした。



港区側への着岸後、天保山の山頂登山に取り組みました。
(標高4.53メートルと日本一低い山ですが)

甚兵衛渡船場【大阪市港区福崎 - 大阪市大正区北恩加島間】

天保山から中央大通を經由し、甚兵衛渡船場へ向かう一行ですが、この区間は今回のルートで最も長く、最高気温をマークする14時台と過酷なものでした。

途中、JRの臨港線を発見し「大阪にこんな単線の風景があるなんて！」と、しばし感動。大型工場が林立する風景を抜け、甚兵衛渡船場に到着。港区側の工場地帯と対岸の大正区泉尾尻無川を渡す渡船は日常的な印象で、舟運時間は昼間で15分間隔。上流には円弧状の尻無川水門、遠方には弁天町のオーク200のビル群が見られます。

着岸後、利用者を渡した後の職員さんの敬礼が印象的でした。



千歳渡船場【大阪市大正区北恩加島 - 大阪市大正区鶴町間】



甚兵衛渡船場から次の渡船場までは比較的近く、マリントニスパークを経由して到着。千歳渡船場は距離が長く、疲れを癒すかのように船旅気分を満喫。

ここでは新設の千歳橋（仮称）の姿が印象的でした。壮大な河口の風景にある建設中の橋は、土木構造物としての橋の美しさを感じるものがありました。



船町渡船場【大阪市大正区鶴町 - 大阪市大正区船町】



船町渡船は対岸との距離が短くあっという間でしたが、風情ある待合所が印象的でした。窓からの瓜？のような植物とその陰影、そして木造の待合室。こうした風景はこれまでの旅の疲れを癒してくれる特効薬となりました。何気ない風景の中に、ゆっくりとした時間や穏やかな空気があることを実感した場所で、都市デザインに携わる一員として、こうした魅力的な空間を感じられたことは、とても有意義なことではないでしょうか。



木津川渡船場【大阪市大正区船町 - 大阪市住之江区平林北間】

次の渡船場まで、工場地帯を通過することとなります。なにやら得体のしれない煙や茶色っぽい埃。機械が制覇する世界にやや圧倒されたメンバーの姿が印象的でした。「こんなところに渡船なんてあるの?」と思うくらい無機質な街で、なにやら未来都市のような印象も受けます。なにせ歩いている人は私たちぐらいなものですから....。



ただ工場の機械的な建造物を、「うーん、なんかモニュメンタル!」と思ったのは私だけでしょうか。

そうこうしているうちに木津川渡船場に到着。あたりを見回すと、木津川に停泊する大型貨物の姿と新木津川大橋が「ここって大阪?」なんて感じさせる河口の風景を創り上げています。そうした風景を見ながら住之江区へ着岸。



千本松渡船場【大阪市大正区南恩加島 - 大阪市西成区南津守】



大阪探検隊の渡船巡りも最終章へ。木津川渡船場から次の渡船場まで、今回のルートで2番目に長い区間となります。陽も傾き、気温も下がり始めましたが、メンバーの顔に疲労の色が出てきました。

「最後、最後」と励まし合いながら千本松渡船場へ。千本松大橋は、私たちの中で「めがね橋」と呼んでいます。このループの下がくせ者で、渡船場の位置にやや迷いました。

木津川への眺望が開け、そこは最後の千本松渡船場。渡船場から見る千本松大橋の姿は、圧巻で「おお！なんと美しい橋であること！」とメンバーをうならせました。架設位置が高いことや、スレンダーなその構造に拍手！

渡船場では出航時間になっても、遠くに見える利用者を待って出航しないところが、「うーん、なんて人情的な渡船だろう。こういう利用者を大事にするところが渡船の魅力の一つだよ」とメンバー。

最後の渡船は、これまでの過酷？なルートを回想させるかのようにゆっくりと離岸し、「めがね橋」に併走しながら着岸。



今回、落合上渡船場と落合下渡船場の2つを廻ることができませんでしたが、渡船の魅力が多少なりとも認識できたと思います。結構、自転車の利用の多いことなど、日常的に利用されている渡船の姿を見て、交通機関としての渡船の重要な役割をメンバー共に話し合いました。

番外 沖縄料理と島唄のお店「うるま御殿」

【大正区南恩加島 2-7-27 コーポナカムラ 1F】

へとへのメンバーを癒したのは、まずここでのオリオンビールでした。料理がくるまでに数本開いたのでは？

料理が次々に運ばれ、角煮(ラフター)、ゴーヤーチャンプルー、チラガー(豚の顔皮)チャンプルーなどがテーブルに彩られました。

ステージでは島唄を中心とした民謡ショーが始まりました。中には狭いステージを目一杯に走り、踊るお客さんの姿が!? こちらも疲れなど吹っ飛び、「えんやー」と拍手喝采!



お酒もオリオンビールから、沖縄の代名詞「泡盛」の登場! うわーきつい! その後、宴は続きました。~一日、お疲れ様でした。

総合調査設計株式会社
sogo tyosa sekkei inc. presents

大阪探検隊

Osaka City Expeditionary party

vol.001

[渡船]
Ferryboat



●渡船巡りルートマップ

